

特集 《弁理士知財キャラバン》

関東キャラバン出陣式

日本弁理士会関東支部 副支部長 佐藤 浩司



要 約

地域キャラバンとしての関東キャラバン立ち上げから四か月が経過した。まだ本格始動しているとは言い難いが、関東キャラバンとしてのこれまでの取り組みと、今後の見通しを簡単に述べる。なお、関東キャラバン隊長である久保司関東支部長のキャラバンに対する思いを併せて掲載する。

日本弁理士会関東支部では、7月30日、支部総会の終了後、日本弁理士会伊丹勝会長、橋本虎之助副会長出席の下「関東キャラバン」の出陣式が行われた。

伊丹会長の挨拶、ならびに橋本副会長の弁理士知財キャラバンに関する説明があった。その後、久保司関東支部長より関東キャラバン結成に向けた決意表明があり、「キャラバン」という名称にちなんでキャラバンに扮し、引き続き、キャラバンの語源とこのたびの弁理士知財キャラバンに関するプロジェクトとの関係と、その思いについて言葉があった。

伊丹会長より関東キャラバン立ち上げに関する依頼状が久保司関東支部長に手渡され、これを以て久保司関東支部長が関東キャラバン隊長に就任した。そして、関東キャラバンは、このときをもって結成され、関東支部の各都県において各都県のキャラバンが立ち上がった。

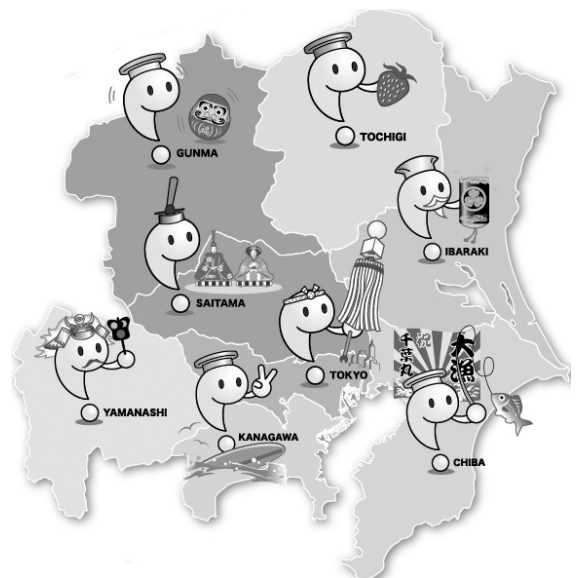


依頼状が手渡された

現在、弁理士知財キャラバンの支援員となるべく研修会を受講し、一定の水準にあると認められた「履修支援員」が誕生しつつあり、今後、その数は増えていく。



依頼状を読み上げ得る伊丹会長



関東支部は、東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・群馬・栃木・山梨の1都7県の会員から構成され、弁理士会全会員の主たる事務所の約7割が上記1都7県にあるという大きな支部である。したがって、全国の各

支部の中で最も多くの履修支援員を擁し、数多くの要請に応えることができることが最大の特徴であると言える。

また、関東支部を構成する各都県は、それぞれに異なった特徴があり、地域での事情に即した知財普及活動を目指し、各都県委員会では普段から各地方公共団体や各都県の知財総合支援窓口との連携による活動、各都県士業団体との交流を通じて、普段から各地域に根差した知的財産普及活動を行っているところである。

関東キャラバンでは、このような関東支部の特徴や事情に鑑みて、弁理士知財キャラバンを新たな取り組みとして各都県にて成功させるべく、関東支部の各都県にて本年度も行っている知財セミナーや中小企業・ベンチャー向けセミナー等を通じて弁理士知財キャラバンの周知を図るとともに、各都県のキャラバンを組織し、この都県のキャラバンによりそれぞれの地域でのニーズの掘り起こしを行うといった、様々な観点からの運営方法を検討しているところである。

以上のような関東支部特有の事情に対応するという

観点から、弁理士知財キャラバンの要請を受けた地域の都県キャラバンにより、個々の要請に対応するべく、関東キャラバンで取り決めた一定の判断基準に基づいて、主に関東地方の各都県に主たる事務所または従たる事務所を有する履修支援員から支援員を任命し、派遣する。

また、関東キャラバンとしては運営面からのサポートとなるが、実際には、派遣された支援員の活躍が、今後の弁理士知財キャラバンの成功の鍵を握ることは間違いなく、各支援員の今後の活躍に期待がかかる。支援員の方々には、是非そのことを心に留め、自己研鑽を継続して、実際に派遣されることとなった際には、力を思う存分発揮していただきたいと考える。

また、上述のように、関東支部は多くの履修支援員を擁することから、人材が不足しがちな近隣の支部に支援員を派遣することも可能であり、日本全体の知財を盛り上げるため、近隣の支部とも連携をとりつつ、弁理士知財キャラバンに関するプロジェクトの運営を行っていく所存である。

以上

キャラバンに思う

日本弁理士会関東キャラバン長（関東支部長） 久保 司

キャラバン統合 WG（ワーキング・グループ）長によれば、支部設置する地域キャラバンの役割としては、推薦支援員の推挙、訪問企業の掘り起こし及びこれに有効な事業の実行、企業選定広報、派遣支援員の選定（履修支援員、推薦支援員リストから）等を業務とするとされます。

これを受けまして関東支部では地域キャラバンとして関東キャラバンを、またその下に各都県キャラバンを組織して弁理士知財キャラバンに対応しております。

この弁理士知財キャラバンはいままでになかった積極的姿勢を弁理士に植え付けるもので、弁理士が経営に参画するためのスキルをさらに磨き、クライアントの信頼と絆を確固たるものすることを狙うものと考えています。

以前顧客からこんな眩きを受けました。

弁理士さんというのは、お医者さんと同じなのですね。何か具合が悪くなったら相談に乗ってくるのですね。

その時のその顧客の心情を正確には解りませんでしたが、なぜかこれではいけないと感じました。客からの依頼を待っているだけでなく、具合が悪くならないように、もしくはもっと元気になるようにアドバイスするのも弁理士の仕事ではないでしょうか。

今回の弁理士知財キャラバンの企画を、支部長として各都県の関係機関に挨拶に回ったときに説明したら、それなりに賛同のお言葉を頂いております。

我々、会員の意識改革と代理人スキルの向上を期待して頑張っていきたいと思います。

（原稿受領 2015. 10. 27）